



## 大阪同志社交友の集い

Merry Christmas 2012

平成24年12月10日(月)

受付 午後5時30分

開宴 午後6時20分～

場所 ウェスティンホテル  
大阪2階

会費 10,000円

主催 同志社校友会大阪支部

会費振込先 三井住友銀行

船場支店(普通)

2381240

お問い合わせは下記へ

同志社校友会大阪支部事務局

ロゴスコーポレーション内

電話 06-6681-8001

## 来春のイベント予告

NPO法人との共催による

マネジメントセミナー

平成25年1月16日(水)

開会 午後6時

共催 LCCと共催

場所 池田泉州銀行会議室

運営委員会法人担当による

LCC新春例会

平成25年2月4日(月)

開会 午後6時30分

内容 検討中

場所 梅田キャンパスポート

平成24年度を総括する

LCC第七回総会

平成24年5月20日(月)

開会 午後6時30分

次第 作成中

場所 未定

# LCC News Letter (29) 17. Nov. 2012



同志社大学今出川キャンパス

アーモスト館

## LCC第七周年記念講演会が無事終了

年去る11月11日(日)同志社大学ホームカミングデー当日に行われましたLCC第七周年記念講演会では本井康博教授のご講演を100数十名の方々が熱心に聴講されました。

原幸一郎LCC名誉会長(株式会社フルタイムシステム代表取締役)

の社業に関する近況を交えたご挨拶に始まり、続いて一時間、本井教授の講話に耳を傾け、最後は講演会を共催頂いた政法会42度卒業同窓会の権野政雄世話役(ゴンノ工機株式会社代表取締役)の閉会のご挨拶で滞りなく終了しました。

## 熾烈なNHK大河ドラマの舞台裏

「八重の桜、裏の梅」の演題から察して、お話がいささか堅い内容を想像していましたが、本井先生独特のユーモア溢れる軽妙洒脱な話法で次のNHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台裏を、誰一人飽きることなく見事に語られました。

大河ドラマは、その影響が全国的に波及し、経済効果抜群の番組であるだけに、各地から陳情ラッシュ、例えば長岡京市の「明智光秀と細川ガラシャ」福島県の「保科正之」など自薦他薦の題材が殺到し、NHKの選考舞台裏は実に熾烈です。

今、放送されている「平清盛」の後に、NHK会長の出身地、三重県が推す「藤堂高虎」が有力候補として浮上していたのが、最終的に「八重の桜」に決定した大きな理由の一つが、「3・11」にあったのではないか、と本井教授は推察します。

すべての百科事典に記載されていて、誰でも知っている「平清盛」が主人公のNHKドラマが、極めて低視聴率、加えて東日本大震災により大きく被災した福島・東北復興の起爆剤となる番組が不可欠となったNHKは、番組編成の基本コンセプトを一新しました。

福島・東北に勇気と元気を与えるのが主眼で、それも男性より女性パワーを活用したいNHKは「八重の桜」を選択し「春は必ず来る」と桜に希望を託したメッセージを発信しました。

しかし、福島県出身の女性と言えば新島八重が何も突出した存在ではありません。「幕末のジャンヌ・ダルク」と呼ばれた中野竹子、女性初の藍綬褒章受賞者瓜生岩子や海老名リン、そして教育家の若松賤子に「鹿鳴館の華」山川捨松がいて、何故、新島八重なのかと、歯切れのよい本井教授の講話が続きます。(次ページへ)



## なぜ、八重が抜擢されたのか

福島県にはドラマの主人公になり得る八重レベル、いや、八重を凌ぐ女性候補が5人いて、また、男性に目を向けても「保科正之」以外に「野口英世」という強力な素材も存在すると本井教授が説明をします。

このような人物を超えて何故、八重が抜擢されたのか教授は二つの要素を挙げました。

八重の「人間的魅力」とNHKでの「実績」です。チャーミングなキャラクター、不撓不屈の信念

や、60キロメートルを持ち上げる程の女丈夫に加え勇気、先駆的行動など八重の人的魅力と2009年4月22日にNHKが放映の「歴史秘話ヒストリア 明治悪妻伝説、初代ハンサムウーマン新島八重の生涯」の実績です。

そして、この番組に対するリピート要請が多く、NHKとして異例の9回の再放送を行った程です。

これにより日本全国で6人に1人、2000万人が「新島八重」を見たことになり、今回の「八重の桜」の誕生に大きな布石となったようです。

## 「鹿鳴館の華」と呼ばれた山川捨松

本井教授は「近代史の中の会津の女性たち」と称して、上記5人を選び「私が同志社の教授でなく番組のプロデューサーであれば、山川捨松をNHKドラマの主人公に選定した」と言われ、「捨松はスリムで背が高く、洋装がとても似合う英語がペラペラの美人」と付け加えられたのです。

正直なところ、山川捨松に関し私は全く知りませんでした。下記はWebからの抜粋です。

近代看護教育の普及に尽力した山川捨松は、1860年会津藩士山川尚江の五女に生まれ、兄弟には東京大学総長となった山川健次郎などがいます。父尚江は、捨松が生まれて間もなく亡くなり、8歳の時、母親と共に戊辰戦争に加わりました。

敗戦で一家が離散する悲劇の中で明治政府が派遣する日本最初の女子留学生に選ばれた際、母親は僅か12歳で旅立つ娘に「捨てたつもりで待つ」との思いを込めて「捨松」と改名しました。

アメリカに渡った捨松は、ニューヨーク州など、十年間にわたり留学し23歳で帰国しました。帰国

した翌年には、あたかも鹿鳴館が開館し、西洋文明を意識した社交界が華開いていきました。

そのころ、陸軍大臣として外国の賓客をもてなしていた大山巖に見初められたが、大山は、もと薩摩藩士で会津攻めの砲隊長として、小田山から城を砲撃した人物。捨松は周囲から強い反対を受けましたが、大山の熱心な申し入れに引かれ25歳の時、結婚(後妻)しました。

捨松は、留学中に看護学を学び、看護婦の資格を取得していたので、日本で初めてナイチンゲールの近代看護教育を系統的に行いました。

有志共立東京病院(現東京自慈会病院)の看護教育所の創設にも尽力しています。また日本赤十字社に働きかけ、日露戦争の傷病者のため篤志看護婦人会を発足させるなど、慈善活動を行いました。1919年当時、大流行したスペイン風邪(スペインから広がったインフルエンザ)が原因で59歳の時、急逝しました。

福島県出身のこれ程までの女性でも今回八重には勝てなかった、八重の妻さを強調する意味で捨松に関し記載しました。(文責:北出 至)



大山(山川)捨松

大山巖が捨松に初めて会ったのは、永井繁子と瓜生外吉の結婚披露宴でのことだった。そこで大山は一目で恋に落ちる。西洋かぶれと自他共に認める大山は、パリのマドモワゼルをも彷彿とさせる捨松の洗練された美しさにすっかり心を奪われてしまったのである。

(Wikipedia)



大山(山川)捨松

英・仏・独語を駆使し時には冗談を織り交ぜながら諸外国の外交官と談笑する。

当時の日本人女性には珍しい長身とセンスのよいドレスの着こなしが光っていた。そのような伯爵夫人を人は「鹿鳴館の華」と呼んで感嘆するようになった。